1　袋井市内のさまざまな自然災害の歴史

（１）　東南海地震　1944年（昭和19年）12月

山名地区

袋井西地区

東海道本線袋井～磐田間

袋井南地区
（「袋井市防災史」より）

（２）　七夕豪雨　1974年（昭和49年）７月

三川地区

袋井西地区

山名地区

今井地区匂坂さんの記録

朝から断続的に強い雨が降り続き、太田川の水位も上昇し続けていました。その夜の未明、だく水は太田川の堤防を乗りこえ、決壊という大災害を起こし、横井地区をどろの海でおおいつくしてしまいました。私たち家族５人も、着の身着のままで、農協の今井支所に避難しました。家は流出してしまい、何も残らず、言葉には言いつくせない大きなショックを受けました。しかし、災害復旧のために間をおかず、その日から、食事の差し入れから片付けにいたるまで、心温まる多くの方の応えんをいただき、被災からようやく立ち上がることができました。

（「袋井市防災史」より）

（３）　延宝の高潮　1680年（延宝８年）８月

浅羽地区長溝村（当時）の様子をえがいた紙芝居

（郷土資料館資料より）

～命山のはじまり～

延宝８年(1680)に江戸時代最大といわれる台風がおそい、全国各地で大きな被害が生じました。袋井市周辺の被害を記した古文書『百姓伝記』には、「午前５時ごろより風がふき出し、午前10時ころには高潮がおしよせ、多くの人馬が死亡、なかでも東同笠村・西同笠村・大野新田・中新田・今沢新田に潮が強く当たり、この村では老若男女300人が死亡した」とあります。このような状況の中、生きのびた村人たちは、横須賀藩の技術指導を受けて、避難所の小山をきずきました。そののち高潮が発生したときは、この小山に避難し、命を助けてくれる山ということで、「命塚」「助け山」「命山」と呼ばれるようになりました。

２　地しんの記録

① 日本で起きた大きな地震と袋井市の主な被害の様子

起きた年	地しんの名前	主な　ひがい
1498（明応７）年	明応の地しん	大きな地われ。５ｍ津波。
1605（慶長10）年	慶長の地しん	市内の被害記録は見当たらない。
1707（宝永４）年	宝永の地しん	35人死ぼう。３ｍの津波。
1854（嘉永７）年	安政東海地しん	103人死ぼう。多くの火じも発生。
1944（昭和19）年	東南海地しん	143人死ぼう。１～２ｍの津波。 地われやえきじょう化が起きた。
2009（平成21）年	駿河湾をしんげんとする地しん	１人死ぼう。６００人以上がけが。

② 地しんの体験を伝えるもの

（東南海地震）

「地震。早く外へ出なさい。」

突然の先生の大声に驚きました。立ち上がって歩こうと思いましたが、尻餅をついて動けません。

（中略）

もつれながらも命からがら這って外に出ました。数秒が生と死をわけたのです。

地震を体験した市川さんの本

「東南海地震　八歳の記憶」より